VALQUA GROUP

CSR REPORT 2013

日本バルカー工業株式會社

「品質と情熱」で広く世界に貢献する存在を目指す

バルカーグループのCSR活動

バルカーグループのものづくりは、1927年にスタートしました。技術だけでなく、先達の情熱と強い意志をも受け継いで、我々はシールエンジニアリングのパイオニアという使命感のもと『つなぎ もらさない技術・製品』で、モノとモノを結び新たな価値を生み出してきました。

また、Value(価値)とQuality(品質)を掛け合わせた社名に込められた思いの通りに、私たちは単にシール製品を製造・販売するだけではなく、製品・サービスの持つ価値を通じて人々の生活をより豊かにし、社会をさらに良い方向に変えていくことを目指し続けています。

この「Value & Quality」を基本理念とし、さらに社員に理解し実践しやすくしたものが、企業理念「THE VALQUA WAY」です。国内外のグループ全社員はこれを思考と行動の礎にし、日々の業務活動の中に落とし込んで粛々と実践しています。これが当社グループのCSRの基盤となっており、そこから生まれたのが当社グループ独自のCSRコンセプト、つまり「Collaboration for Customers (顧客のための協働)」「Superior Quality (第一級の品質)」「Rule First(ルール最優先)」です。当社グループのCSR活動とは特別なものではなく、日々の業務活動そのものなのです。

より良い社会を実現するために

近年、市場環境は著しく変化していますが、グローバル企業が社会に与える影響力はますます強くなってきています。当社グループは、社会をより良く変えていく力の一つになるため、あらゆる事業活動の「品質」を高め、世界中のステークホルダーの現在、そして未来からの多様な期待に応える持続可能な真のグローバル企業を目指します。そして、信頼され必要とされる企業とし

て、より良い社会の実現のために貢献することが、私たちの社会に対する責任と考えています。

企業としてのこうした価値観に立って、バルカーグループは以下のような課題に取り組んでいます。

「環境経営の推進」

バルカーの主力製品であるシール製品は、液体や気体を漏れさせない性能を持つため、それ自体が環境に優しい製品といえます。その製品と技術の提供を通じて私たちは環境貢献に取り組んできましたが、2002年に環境憲章を定め、さらに環境に配慮した事業活動を進めています。

具体的な事例としては、グループ生産子会社におけるISO14001の認証取得、電気二重層コンデンサの大型化に対応した電極膜をはじめとするエネルギー分野向けの製品開発、生分解性作動油や地球温暖化係数が低い代替フロンなどに適合したシール材の開発、省エネルギーに寄与する膜事業への展開など、環境に寄与する新技術への対応などがあります。2013年度も、エネルギーセーブと環境負荷の低減を軸とした製品開発や工程改善に力を入れていきます。

また、環境への寄与をキーワードに新しい事業への挑戦も進めています。2011年に従来のメンブレン事業部を環境関連事業部として改編し、環境分野への取り組みをその課題とする中、同年12月に半導体ウェハーリサイクル事業へ進出しました。そして、2012年5月にはアライアンスによるLED照明の取り扱いを開始しました。また、再生可能エネルギー拡充に向けた太陽光発電への取り組みがわが国においても積極化してきた機会を捉えて、本年３月に九州バルカーの敷地内にメガソーラーを建設し、太陽光発電による売電事業を開始しました。限りある石油資源に頼らず、地球温暖化を招くとされるCO_2をはじめ、騒音や汚染物質も出さないこの事業は、地元九州における電力不足への協力の面でも地域の方々に歓迎されています。

「人材育成」

グローバルに活動する企業として、世界的な視野に立った人材の育成は、社会に対する大きな責任の一つです。グループ人員構成の約半分が海外人材であるバルカーグループが、安全性や機能性が約束された確かな品質の製品とサービスを提供し続け、ステークホルダーからの期待に応えるためには、グローバルな人材の教育が喫緊の課題です。そこでバルカーグループでは、2009年に「グローバル人事制度」を導入し、グローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいます。また、2012年に「グローバル単科生制度」を導入し、入社間もない段階から将来のグローバル人材を目指してトレーニングできる環境を整えています。

また中国においては、2011年より現地法人の経営トップを輩出するための「経営幹部研修」や工場現場改善力を高めるための「工場現場力アップ研修」を行っています。そしてベトナムにおいても、2012年より現地化に向けてローカル社員の幹部育成に取り組んでいます。

世界各国のグループ全社員が国籍・民族を越えて、あらゆる環境変化にも「強く・逞しく・強(したた)かに」向き合うことのできる強い精神力と情熱に溢れたバルカーパーソンとして育つべく、チャレンジする場を提供して成長の機会をつくりだし、新たな未来の可能性を切り開くことが、グローバル企業としての責任であると考えています。

夢と情熱を胸に持続的な発展を目指す

現在、世界では経済の低迷や貧富の差の拡大などによって、未来のグローバル社会を担う若い世代の間で閉塞感が強まっています。私は、グループ社員をコーチングする際、よく自分の夢について語り、社員の夢も聞くようにしていますが、私たちが夢を持ち「自分たちが未来を拓く」という気持ちを持って情熱的に努力をすることが、個人の幸福に繋がると同時にバルカーグループに新たな成長発展をもたらすと確信しています。

これからもバルカーは、グローバル社会の一員として持続的な発展を目指し、情熱をもってさまざまな取り組みを進めていきます。

2013年８月

代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤利一

私たちのものづくり ～Our Message for You～

バルカーグループのすべての製造拠点では、社員一人ひとりが常に「品質向上」の意識を持って、安全性に優れ、かつ社会に有用な製品を製造しています。お客さまのニーズに応えて、価値ある品質を創造し社会に貢献するために、私たちは今日も真摯に”ものづくり”に取り組んでいます。

バルカーシール上海

殷 佳仪

私は、**「金属ベローズ」**を装置に取り付けるための金属部品の品質検査を担当しています。この製品は、私たちバルカーシール上海の製造２課で製造した後、バルカーセイキの最終検査を経てお客さまの元へ届けられ、各種装置の精緻な駆動を支えています。VALQUAの名の下に、私たちは一つです。

バルカー シール ソリューションズ

福崎 辰典

半導体製造装置におけるシール材のねじれ、破断、脱落現象が起こらぬように開発されたのが、**「ボンデッドゲートシール」**です。世界中のお客さまに『この製品はNo.1』と言っていただくために、仲間とともに品質向上を常に意識し、地道な工程改善を大切にして、魂を込めて丁寧な成型作業を行っています。

バルカーコリア

キム・クンヘ(左)　キム・ヒョンヒ(右)

私たちが外観・寸法検査を行っている**「高機能エラストマーOリング」**は、“神の領域”とも言われる半導体製造の世界を支えるシールとして開発された製品です。検査工程はまさに出荷への最終ゲート。この製品が全世界の発展へと繋がることを意識し、どんな小さな見落としも許さない気概で製品と向き合っています。

バルカー・エフエフティ

泓 一宇

半導体の製造過程で装置の評価等に使用された**「シリコンウエハー」**を、独自のノウハウで新品同様にリサイクルしています。世界中から集まる大切な資源を一つひとつ丁寧に研磨していると、この環境に優しい仕事が最先端半導体製品を支え、さらには社会の発展や環境負荷低減に貢献しているのを掌で感じることができます。

先端産業向けの製品を作っています

台湾バルカー国際

林 新富

この大きなタンクは、ふっ素樹脂シートを内張りした**「ふっ素樹脂ライニングタンク」**で、高純度薬液を使用する産業には欠かせない存在です。より高い品質レベルが要求されるため、常に緊張感を持って貼り付け作業にあたっています。これからの私のテーマは、20年の経験をベースにした技能伝承。“技”だけでなく“心”も伝えていきます。

主に使用されている産業・機械

- 半導体工場
- 電気製品
- 自動車
- プラント
- 航空機
- 工作機械
- 発電所

バルカーエラストマー

鈴木 英寿

この**「合成ゴムOリング」**は、あらゆる機械に使われている万能な製品です。皆さまの目に触れることは少なくても、産業の発展とより良い暮らしの実現には無くてはならない存在であると誇りに思っています。バルカー人として、確かな品質と安心をお約束します。

バルカー・イイダテクノロジー

小池 翔

この**「セミメタリックガスケット」**は、過酷な環境にも耐え得るガスケットです。私はこの製品の要ともいうべき金属薄板の加工を担当しています。特注製品が多く、作業に追われることもありますが、常にお客さまに安心して使用いただけることを第一義として、丹精込めて作り上げています。

九州バルカー

武田 学

この**「ふっ素ゴムOリング」**は、耐熱性・耐透過性等に優れたゴムをベースにしたシール製品です。私は生産効率を上げるために、日々工夫をこらして工程調整業務を行っています。高効率は納期順守や原価低減に加え、品質向上を図るためにも欠かせません。また九州バルカーでは、メガソーラーによって電気も作り出しています。

基幹産業向けの
製品を作っています

上海バルカー

張 峰

この大きな材料は、優れた特性を持つふっ素樹脂の**「大型ビレット」**で、シートやフィルム等に加工されてモバイル機器から化学プラントまで幅広い分野で使われています。私は入社してからの12年間、常に“顧客感動の提供”を目指してきました。これからもVALQUAブランドの製品が社会に貢献できるように、日々の努力を重ねていきます。

バルカーシール上海

柴 丽萍

私が生産ラインの監督をしている**「高温対応シートガスケット“GF300”」**は、VALQUAの配合技術が生んだ高機能な製品です。品質を高いレベルで安定させ、効率的に生産するためには常に改善あるのみですが、これからは次世代のものづくりを支える若手社員の指導にも力を注いでいきます。

タイバルカー

バンジョン ターポンミー(左)
キッティポン チャイヤクーン(右)

私たちが製造している**「ジョイントシートガスケット」**は、環境に優しい原材料を使用する汎用ガスケットです。いかなる時も、VALQUAの名にふさわしい高い品質の保持に向けて、そしてお客さまの『信頼されるONLY ONEのパートナー』となるべく、一致団結して作業を行っています。

バルカーベトナム

マック ティ トウイ(中央) 他

この**「うず巻形ガスケット」**は、高温・高圧の流体を扱う各種機器用ガスケットとして広く使用されています。私たちが担当する巻き取り、検査、梱包の現場では、『製品だけでなく安全・安心をお届けすることがものづくりの根源であり、使命である』と考え、一体となって品質の向上に挑んでいます。

バルカーグループは、グループの成長を主導する「グローバル人材」の育成を強化するとともに、アジア拠点との繋がりを一層強固にして、グループの一体感の醸成に努めています。
社員一人ひとりの成長と会社の成長がともに実現することを目指しています。

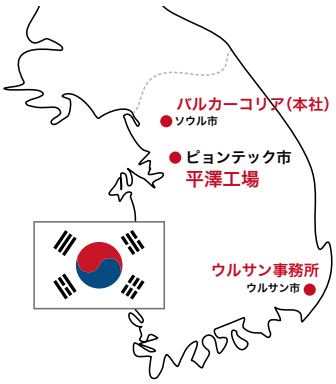
夢を語ることが未来を変える

バルカーコリア　副MD　梁（YANG）　赫（HYUK）

プロローグ

古いネクタイに込められたメッセージ

2012年7月4日、バルカーコリアは韓国京畿道平澤（ピョンテック）市に半導体製造装置用の高機能エラストマーシールを製造する平澤工場を建設し、竣工式を執り行いました。竣工式には、京畿道の副知事や平澤の市長をはじめ、取引先や関係者の方々にご参列いただきました。バルカーコリアが販売拠点から生産・販売拠点として生まれ変わったこの大切な式典の最中、ふと私は自分がとても古いネクタイを締めていることに気がつきました。「そうだ、これは今は亡き佐藤さんから10年以上前にいただいたネクタイ…」当時ソウル駐在事務所長であった佐藤さんは、私をバルカーへ誘ってくれた恩人です。



この晴れやかな日に、どうしてこの古いネクタイを選んだのだろうか…私は入社してから14年の年月に思いを馳せました。

社宅アパートからスタートしたバルカー人生

バルカーに入社した初日の出勤先は、佐藤所長の社宅アパートでした。社員は佐藤所長と私だけ、会社らしい設備が何も無い状態からのスタートで、私たちは事務所を借りることから始めました。自分の給与すら自ら銀行に行って送金振替をしなければならなかったことを、今でも鮮明に覚えています。

入社当初、私にはガスケットやパッキンの知識は無く、自社製品であるという認識しかありませんでした。しかし、だんだんと製品の特性を掴み、それらのシール製品を通じて多様な産業分野に触れ、新しい世界が広がり始めたことは、とても喜びが多く新鮮なことでした。

しかし、日本と比べて若年層の離職率が高いここ韓国で、バルカーに14年間も勤続できたのは、そういったことだけが理由ではありません。会社勤務をする理由について、多くの人々は経済的な事情を挙げ、その上に自己実現（達成感・個人の成長・昇進等）という理由をつけようとするでしょうが、私にとって一番重要なのは「プライドを持てる会社かどうか」です。

バルカーは単に利益を追求するだけの企業ではありません。企業理念「THE VALQUA WAY」を全社員が共有し、自分なりの、そして自分のための「WAY」を論じて、思いを馳せて、実現していくという土台があります。バルカーの根幹に共有する理念が根ざしていることは強固な強みであり、それが私にとって1番のプライドになっています。

私に大切なことを気づかせた言葉

社宅アパートからスタートした私のバルカー人生ですが、その後2004年にバルカーコリアが設立され、ウルサン事務所を開設しました。

2009年4月、私は37歳でバルカーコリアの副MDという職責に付きました。しかしこの前年度、バルカーコリアは、リーマンショックによる韓国の通貨価値の持続的な低下により為替差損が発生していました。そのような時期に重責を担わせてもらうことへの感謝と、任務を果たせるだ

ろうかという不安が交差する中で、全ての面において孤軍奮闘していた私に、瀧澤社長から発せられたのは、次のような言葉でした。

「管理者とは過去の延長線上の未来を作り、経営者は過去に無い未来を創る」

過去に囚われ、過去の延長線上に未来を作ろうとしていた自分に気付き、恥ずかしくもあり自身の未熟さに腹立たしい思いもありました。しかし、これからは経営者として過去にない未来を創ればよいのだという喜びが湧き出る言葉でもありました。

夢を考え、語ることが未来を変える

グループのトップと海外子会社の現地スタッフとの面談は非常に珍しいことだと思いますが、私には1年に数回、瀧澤社長によるコーチングに参加する機会があります。ラーニングを重ねて分かったことの一つに、「ドライで怖い方」に見えていた社長は、実は「とても熱い方」だったということがあります。社長からはよく、「バルカーにおける夢は何か？君の人生における夢は何なのか？」と熱く質問を受けます。会社勤めをしながら夢を語るとは思ってもいなかった私のほうがよっぽどドライな人間であり、ドライな認識を持っていたと気づかされ、同時に夢を持つことの大切さを学びました。

今では、新入社員の面接を行う際には、私が彼ら・彼女らに「夢」を質問しています。大部分の社員はあまり深く考えていないようですが、私の質問がきっかけで夢を考えることになれば、彼らの未来は必ず変わると強く信じています。

現在の韓国、そしてバルカーコリアでは、未だ若い人材の流出入が絶えません。それが社会構造であり、トレンドであると言う人もいるかもしれませんが、私はそうは考えていません。たった2名の駐在事務所でガスケットやパッキンを通じて新しい世界を知り、共有できる理念がモチベーションとなっている私のように、社員一人ひとりに必ずバルカーでなくてはならない理由と動機がある。私はそれを見つけてあげたいと思います。

バルカーグループにおける「グローバル」とは

2012年の新工場建設により、バルカーコリアは販売拠点から生産・販売拠点へと規模を拡大しました。そして、販売実績の伸張や人員の増加、グループ内子会社への人材派遣等、韓国向けの拠点から韓国発の拠点に変化を重ねてきました。

韓国に進出した日系企業では珍しい現象だと思いますが、これまでにバルカーコリア出身の3名の人材が国籍・年齢・性別の壁を越え、ベトナム・日本・中国で勤務をしてきました。「グローバル」は、多くの企業において言葉としては重要視されていますが、バルカーグループでは理想論に止まらず、機会と人材育成が実現されています。私も2011年からほぼ毎月、中国上海において中国人幹部とともに経営研修を受け、バルカーコリアの中期経営計画達成のための戦略策定と実践のために学んでいます。

そして、「THE VALQUA WAY」の実践発表大会も世界各拠点において同じ重要度を持って展開されており、バルカーグループにおいて「グローバル」とは、ある意味これから新たに作り出すシナリオではなく、エスペラント（万国共通語）的な象徴語に過ぎないのかもしれません。

おわりに

韓国はもちろん、世界中どこを見ても市場での競争は熾烈であり、加速化しています。市場で生き残り業界をリードするということは、言うまでもなく一番根本的な目的であり目標です。そのためにバルカーコリアでは、当該年度の業績達成と中期ビジョンおよび戦略の実現のため、成長と挑戦をし続けることを約束します。

竣工式で私が無意識のうちに身につけていたネクタイは、「初心を忘れずに努力し、平澤工場を必ず成長軌道に乗せなくてはならない。そして、バルカー人として会社に、社会に貢献し続けよう」という思いが込められた、自分に対する決心のメッセージだったのです。

2027年、バルカーグループは100周年を迎える企業として新しい価値と品質を実現するはずです。そのとき私は、たくさんの後輩たちに堂々と成長と成功のストーリーを話してあげたいと思います。

地域社会へ、そして地球環境への貢献につなげる

バルカーグループでは、環境保全への自主的な取り組みを経営戦略の重要施策として位置付け、2002年に「環境憲章」を定め、環境活動を推進してきました。

そして、2011年の東日本大震災を契機として再生可能エネルギー拡充に向けた取り組みが積極化してきた機会を捉え、地球環境への貢献だけでなく、地元九州における電力不足への協力と保有資産の有効活用等の見地から、九州バルカーにおけるメガソーラー発電事業への取り組みを決定しました。

2013年3月26日 メガソーラー発電開始

午前9時23分、真剣な表情で発電メーターを見つめていた九州バルカー MDの曽根俊二と生産技術課長の宮川和弘は、発電を示すメーターが0からぐんぐん上がり始めたのを見て歓声を上げました。「土地調査から始まって9ヶ月間、バルカー人生でこんなに大変で忙しかったことはありません。しかし、こんなに見事なメガソーラーが建設され、無事発電を確認できて心からほっとしました。実務担当者として、ファーストミッションを達成できた自分を誇りに思います」と宮川は安堵の笑みを浮かべました。

九州バルカーは、福岡県飯塚市に位置し、27年に亘ってふっ素ゴム製品の生産を行っています。敷地内にある26,000㎡の更地は、日当たり・設置容易性の両面でベストの立地条件であったことから、メガソーラー建設地として白羽の矢が立ちました。

完工したメガソーラーは、約1,884kwの出力規模を持ち、年間発電量は約210万kwhを計画しています。この電力は、一般家庭約560世帯分の年間電力消費量にあたり、CO_2削減換算で年間703t、石油換算で年間480㎘に相当します。「雑草生い茂る東京ドーム0.7個分の遊休地の活用に、長年頭を悩ませてきました。それが、環境に貢献する新規事業としてメガソーラーが建設され、社会性の高い施設を保有できるようになったことは、従業員一同にとって大きな喜びです。短期間のうちにパネル選定・工事準備・各種申請と目の回るような忙しさでしたが、その苦労は吹っ飛びました。さあ、発電開始です。飯塚市の皆さん、バルカー発の電力を送ります！」(曽根)。

バルカーグループの決意

バルカーグループがメガソーラー発電事業への取り組みを決意したきっかけは、2011年の東日本大震災です。それまでも、2002年に「環境憲章」を定めて環境保全への自主的な取り組みを経営戦略の重要施策と位置付けて環境

点検作業を行う曽根（左）と宮川

説明看板前での社員教育

活動を推進してきましたが、震災以来の地球環境への意識の高まりを受けて、2012年３月に「環境関連事業部」を設け、環境をキーワードとする新たな分野への取り組みをその課題としました。そうした中で、再生可能エネルギー拡充に向けた社会の動きが積極化してきた機会を捉え、地球環境への貢献を果たすというCSRの観点だけでなく、九州バルカーの地元・九州における電力不足への協力、保有資産を有効活用して売電収入を得るという効率経営等の見地から、メガソーラー建設を決定したのです。

九州バルカーに建設されたメガソーラーには、ある特徴があります。それは「見せる発電所」であることです。計画当初からさまざまな可能性を検討しましたが、その中のひとつとして、「地域の子供たちの学習に役立てられないだろうか」というアイデアが生まれたのです。そこで、発電所内にはグリーン帯や見学デッキを設け、説明看板を配置しました。この見学デッキからは整然と敷き詰められた約1.2万枚の太陽光パネルを一望することができ、見学された方々にも新エネルギーを実感し、地球環境を守るとはどういうことかを考える一助としていただけるものと考えています。

地域社会との絆を深める事業

九州バルカーは1985年に設立され、ふっ素ゴム製品の生産会社として27年間にわたり飯塚市の発展と共に歩んで来ました。

「これまで地元の皆さまに支えていただいたご恩を、ささやかながらエネルギー面での貢献によってお返しできるのではないかと考えています。また、本業であるふっ素ゴム製品の生産においても、品質の高い製品を製造し、皆さまへのお役立ちを末永く続けて行く決意です」（曽根）

メガソーラーは20年以上の長期にわたる事業です。したがって、地域社会への影響を考慮し、太陽光パネルは環境にやさしく実発電量の多い太陽電池を選択し、施工や長期にわたる管理・保守等についても、豊富な実績を有する地元の電力設備会社にお願いしています。

地元密着型の事業を行うことで、さらに地域の皆さまとの「絆」を深め、今後は発電所を適切に運転・維持・管理し電力を供給し続けることで、地域社会へ、そして地球環境への貢献につなげていきたいとバルカーグループは考えています。

Voice

メガソーラーを目にして

九州バルカー　管理課
中濱 伸子

「ばり、でかかぁ～！」初めてメガソーラーを見た時、博多弁でそうつぶやいていました。

「バルカーは何を作っているんですか？」とよく質問を受けますが、これからは「工業用のゴムパッキンと、皆さんの使っている電気も作っています」とお答えできるのが楽しみです。

Interview

メガソーラー建設は非常に喜ばしいニュースです

飯塚工業団地工業会
会長
小金丸 滋勝 様

メガソーラーシステムのご竣工、誠におめでとうございます。４月４日の竣工式では、曇空にも関わらず500kwを越す発電量に、驚きと感動を覚えました。

我々飯塚工業団地工業会の加盟企業は、多くの電力を使用して操業しております。東日本大震災後から今夏も続く節電要請に対し、その努力をする中にも操業を継続するために電力を消費することはやむを得ず、肩身の狭い思いをしておりましたので、1,500kwh規模のメガソーラーを建設されたことは我々にとって非常に喜ばしいニュースです。

クリーンで安全なエネルギーを生み出す発電所の開設は、時代のニーズを捉えた素晴らしい事業であり、「Value & Quality」のスローガン通り新しい価値の創造をされていると、飯塚工業団地工業会としても誇らしく思っております。

バルカーグループの経営方針「THE VALQUA WAY」の下に、国籍・人種・性別・年齢の壁はありません。世界中の社員が等しく「バルカーパーソン」であり、多様な人材を活用することで新たなイノベーションを起こし、企業力の強化につなげたいと考えています。

ダイバーシティの推進においても、女性社員が高い意欲を持って能力を存分に発揮できる環境づくりを行うとともに、さまざまな制度の充実に取り組んでいます。

MAMIKO YATABE

柔軟に誠実に

法務部　部長
谷田部 麻美子

弁護士事務所勤務の頃は、かかりつけの医者のようにお客さまの身近にいて、頼られる存在でありたいと常々考えていました。そんな私が、グループの一員として解決の道を探し、困難を乗り越え、成功を分かち合える企業内弁護士という選択をしたのは自然なことでした。

また、当社の製品には長い歴史があり、私たちの暮らしに欠かせない物としてあらゆる場所に使用されている、その誠実さや真面目さに惹かれて入社しましたが、製造現場で一つひとつ心を込めて製品を製作しているのを見て、入社してよかったと改めて感じています。

現在は法務部長として、マネージメント業務も行っています。若くして（33歳で部長就任）管理者となったことに不安が無かったといえば嘘になりますが、ビジネス経験の浅い部分は経験ある人の胸を借りながら、常に「教えてもらう」気持ちで臨んでいます。一方で、過去の慣習にとらわれない白紙の状態で臨む感覚を忘れず、刻々と変化する内部・外部環境に即応できる柔軟な姿勢を心がけています。

現在は、当社の重要な製造・販売拠点である中国にも法務分室を置き、スタッフ（中国律師〔＝弁護士〕）とともにチャイナリスクの分析を行い、グローバルなリーガルリスクのコントロールにも注力しています。ゆくゆくは、海外各拠点を直接コントロールできるリーガルリスクマネジメント体制を構築したいですね。

法律を扱うことも、お客さまへ製品を届けることも、誠実さが何より大切であると考えています。法務部として誠実に職務を全うし、欠かせない部門として会社の発展を支え、お客さまへ大事な製品を届ける一助となりたいと考えています。

プライベートでは一児の母であり、仕事と子育ての両立を特に意識したことはありませんが、子供と過ごすときは仕事を忘れて思いっきり遊ぶようにしています。子供の笑顔を見ると「がんばろう」という気持ちが沸いてきて、むしろ私のほうが支えて貰っているのかもしれません。

AYAKA YOSHIMURA

挑戦し続ける

シール営業本部　東日本営業部
プラント・ＳＤ課
吉村 綾香

私は入社４年目で、主にプラントエンジニアリングメーカーの営業担当をしています。

バルカーに入社したのは、シールエンジニアリングのパイオニアとして積極的なグローバル展開を行っていることと、女性の登用に積極的で平等な姿勢を会社説明会で感じたことがきっかけでした。

学生時代の留学で、日本の「ものづくり」の素晴らしさに気づいたことから、日本の技術や製品を世界に広める橋渡しのような仕事をしたいと願ってきました。バルカーとの出会いによってそれが現実となり、今や実際に「ものづくり」に関わり、当社の製品を通して日本と世界を繋ぐ仕事に携わっています。

今、私は海外向けのビッグプロジェクトに挑戦しています。このプロジェクトは日本のエネルギー源確保において重要な案件であり、受注に向けて始動したとき「これに携わることで、シールメーカーとして一個人として社会へ貢献することができる」と担当営業として大きな夢への一歩を踏み出せると感じました。

しかし、気合十分で挑んだものの、いざ始めてみると膨大な英文書類と、当社にとって不利な条件など問題が山積みでした。また、自身の経験と知識不足から、最初は何から手をつければよいかわからず戸惑うばかり。しかし、上司や先輩からのバックアップを得ながら一つひとつ問題をクリアし、また自ら担当役員や関連部署を巻き込んで行き、会社一丸となってこのプロジェクトに取り組んだ結果、受注の内示をいただくことができました。先方の「Congratulations!」の言葉に、今までの苦労が走馬灯のように駆け巡り、涙が出そうなほど嬉しかったことを鮮明に覚えています。

無事納品を終えるまで私の挑戦は続きますが、若手の自分に大きなチャンスをくれた会社と、未熟な私を支え力を貸してくれた先輩方への感謝の気持ちを胸に、これからも果敢に挑戦を続け、バルカーの製品を世界に広めていきたいと思います。

MARIKO TAKANAMI

未来を拓く情熱

Valqua Industries (Thailand) Limited, Singapore Branch 支店長

高浪 真理子

「グループ初の女性支店長」に対する気負いはありません。今まで歩んできた人生の延長ですし、背伸びをしてもすぐに見透かされますから。

単身で日本を飛び立ったのは2012年のクリスマスでした。シンガポール国内はもちろん、マレーシア・インドネシア・ブルネイ・フィリピン・中東と広域にわたるテリトリーを持つ支店を任されるにあたり、異なる人種・文化や商習慣の中で何をなすべきか深慮した結果、人間として相手を尊重し信頼関係を築くことを第一の目標としました。

当支店の主要顧客は石油化学プラントや半導体製造業です。ジャカルタから車で3時間かけて、ヤギやバイクや車や人が無秩序に行き交う穴だらけの道路を通ってお客さまのプラントにたどり着くと、「こんな奥地までよく女性一人でいらした！」と歓待してくださり、温かく迎え入れてくださいます。しかし、仕事をいただくまでには製品知識をはじめとする幾つもの引き出しが必要ですので、その数を増やし一杯にする努力をしています。

バルカーの魅力は、男女平等にチャンスを与える点です。2009年に海外営業統括部に配属させ、まずはバックオフィスで基礎を学ばせてから海外支店へ転勤させと、会社側は先を見据えた育成計画を立ててくれています。

女性が与えられたチャンスを生かすかどうかは本人次第ですが、生かせるかどうかには家庭の理解も大切です。私の場合、配偶者との信頼の積み重ねや、生き方についての日頃の会話があった上で「営業の最前線を経験するため、このチャンスを生かしたい」と情熱を伝えました。こうした熱意も、理解を得るには必要ですね。

私のモットーは楽しむこと。苦しいことや不安なことはたくさんありますが、一度きりの人生を大いに楽しみながらも精一杯仕事をし、支店の社員にも幸せを感じてもらい、売上目標を達成し、新しい仕掛けを展開しながら更なる飛躍を狙っていきます。そしていつか、女性の社員から憧れられるような存在になりたいものです。

ONLY1になる覚悟

人事部　秘書チーム　副参事

白　原灯

BAEK WON JEONG

バルカーコリアに入社した理由は、日本語を活用でき、中途入社でも総務や人事、経理など過去の業務経験が生かせると考えたからです。しかし、当初は自立性と柔軟性のある職場には見えず、初日から転職したくて堪らなくなりました。それが今やバルカー歴６年。悩みを打ち明けていた友人も驚くほどバルカーに「夢中」になったのは、入社後間もない時期にグループのトップがバルカーコリアを来訪し、ラーニングの機会を得たことがきっかけです。

初めて伺う社長の話は厳しくも新鮮で、夢中になって話を伺ううちに私の胸にじんわりと熱い何かが伝わってきました。それはグループの企業理念「THE VALQUA WAY」への社長の情熱と真の心でした。これを機に、私は「WAY」の理解に努め、今まで表面的にしか見えていなかったバルカーの真の魅力に気づくことができたのです。

そんな私に転機が訪れました。本社秘書チームへの出向の辞令です。言葉の壁はもちろんのこと、秘書業務という未知の世界への不安が駆け巡り、一瞬頭の中が真っ白になりました。しかし、今までバルカーコリアだけを見てきた狭い視点から、役員の目線で考えリスクマネジメントできる全体感を身に付けるためのチャレンジと考えた時、これはかけがえのないチャンスだと気づきました。

出向して４ヶ月、業務を通じてさまざまな体験をして、多くの新しい発見がありました。また、近くて遠い日本文化、そして価値観の違いの中、多くの苦労や悩みもありますが、ここで学んだことを韓国に展開すべく前向きに取り組んでいきたいと考えます。

海外進出した日系企業ではほとんど考えられないグループのトップによる現地社員へのコーチングや充実したグローバル人材制度、そのような恵まれた環境にいる自分の存在価値を模索し続け、No.1を超えてONLY1のバルカー人になる覚悟で困難を絶好の成長機会と捉え、己を鍛え続けます。

人材育成と職場環境づくりにおける取り組み

バルカーグループは、経営資源の中でも最も価値のあるものとして「人材」を捉え、人材育成をグループ戦略の一つに据えて人材開発に取り組むとともに、やりがいを持って能力発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。

また、世界各国のグループ全社員がバルカーグループ共通の企業理念である「THE VALQUA WAY」の実践活動を通じて、「WAY」に対する理解を深め、自発的に自らの意識や存在価値を高めることで、社会人・企業人・バルカー人として常に成長し続ける人材への育成につなげています。

◆グローバル化に向けた人材育成

バルカーグループが真のグローバル企業としてより一層活躍するためには、社員一人ひとりをグローバルに活躍できる人材に成長させることが必要です。そのため、世界各国のグループ社員がグローバルビジネスで活躍できるように制度を整え、教育体制を強化しています。

また、「THE VALQUA WAY」の実践によりグループ全社員が共通の企業理念を共有することで、常に成長し続ける人材の育成につなげています。実際の活動に関する発表の場を設け、毎年創業記念日（1月21日）に全社大会を開催しています。本大会には各国の予選会で選抜された優秀者が集い、グループ社員が国境を超えて交流することにより、相互のグローバル意識向上にも寄与しています。

●グローバル人事制度・単科生制度

2009年に「グローバル人事制度」を導入し、出身国にとらわれないグローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいます。本制度は、採用国以外の他国でチャレンジする意欲のある者を募り、一定基準の下で選抜し、体系的なトレーニングを実施するものです。他国での実地経験や成長・能力発揮の機会を与えるため、国内外での計画的なローテーションも行い、将来的には、実行力・変革力に優れたグローバル経営を担う人材の輩出を目指します。現在、中国人11名・韓国人1名・日本人3名の合計15名をグローバル人材として認定しており、実際に他国に赴いて実地経験を積んでいる人材もいます。

2012年には「グローバル単科生制度」を新たに導入し、入社間もない段階から将来のグローバル人材を目指してトレーニングを受けられる環境を整えました。現在、中国人6名、日本人1名の合計7名がトレーニングに励んでいます。

●新入社員向け海外研修

グローバルにビジネスを推進できる人材の育成を目指し、早期にグローバル感覚を身につけさせるため、入社直後の新入社員研修に引き続き、グローバル社員を目指す新入社員を対象とした海外研修を行っています。海外拠点へ6ヵ月間派遣して、異文化の多様性に気づき対応できるように、国民性・文化・言語などの違いを体感させ、国際社会を生き抜く力を養います。

●バルカー人養成道場

新入社員を対象に、グローバルに対応できるバルカー人を養成するため、雄大な富士山の麓で3泊4日の合宿研修を行っています。経営トップと新入社員との直接のコミュニケーションの機会を通じ、自らに徹底的に向き合い、自らの生き方を考え抜く鍛錬の場としています。

バルカー人養成道場

●海外幹部向け来日トレーニング

海外拠点のローカル幹部を対象として、定期的に日本へ招集し集中トレーニングを実施しています。グループ一体感の醸成とロイヤリティ向上を図り、コーポレート幹部との交流を通して、グループ幹部としての素養を高めています。

●海外拠点における人材育成（中国）

戦略上の重要拠点である中国法人強化の一環として、2007年に中国人材開発センターを上海に設立しました。現在、現地に適合した教育体制の構築を目的として「底上げ」と「選抜」の両面から教育を行っています。

また、グローバル競争力を強化するために2011年より取り組んできた「経営幹部の養成」ならびに「工場現場社員の強化」は、更なるレベル向上を目指して、2012年より第2ステップに移行しています。

◆ ◆ ◆

＊経営幹部の養成

現地社員の管理職から選抜したメンバーを対象に、実際の経営課題に向き合わせ、集合研修と個別指導ならびに現地トップによるOJTを実施しています。経営・事業戦略、事業コンセプトを策定することの重要性を認識し、経営上の課題の検討を通じて経営資質を高めることにより、将来の経営トップの輩出を目指しています。

＊工場現場社員の強化

ものづくりの現場力を一層強化するため、現場監督者層を含む現場ワーカーの研修を行っています。昨年の「学び」の段階から、本年は現場での「実践力」を高める研修に移行しています。

＊新卒人材採用強化

中国での業容拡大や成長に貢献できる、専門性の高い大学院・大学の新卒人材を確保するため、年間を通じた採用活動に積極的に取り組んでいます。優秀な人材確保のため、教育機関との関係強化を深めるとともに、採用活動を早期から開始することで、より多くの新卒予定者の中から人材を選抜し採用しています。

●海外拠点における人材育成（ベトナム）

海外拠点の現地化に向けて、ローカル社員の幹部育成に取り組んでいます。2012年より、部長・課長層の育成に着手し、技術などの社内教育に加え、事業計画の立案や展開、管理職の役割・責任等について現地外部機関を活用して教育を行っています。また、日本語教育についても、インターネットを利用した教育を行っています。

◆社員のキャリア開発を支援

バルカーグループでは、競争力の源泉は人材の開発と組織の活性化であるという信念の下、自己実現に向けて高い志を持ってチャレンジし、常に成長し続ける人材を、グループ全体で育成する環境づくりを行っています。

●フロンティア・チャレンジ制度

新たな事業創出に強い意欲をもつ社員を対象に、自らのアイデアを実現するため、通常の業務とは別に自由な研究活動に取り組める制度として「フロンティア・チャレンジ制度」を導入しています。挑戦を通じて貴重な経験を得るとともに、将来に向けた新規事業分野の創出はもちろん、社員がチャレンジすることを恐れず、自由な発想で積極的にアイデアを提案できる社内風土づくりを目指します。

●トータルキャリアチャレンジシステム

生涯にわたって自ら学び成長し続ける風土を創り、自立した社員の育成と、さらにはグローバル化にも対応できる人材を育成するため、「トータルキャリアチャレンジシステム（生涯学習システム）」を導入しました。

長期にわたるキャリア形成の中で、「昇格（キャリアアップ）」を学習と成長の好機と位置づけ、昇格後の必須知識の習得など段階的な学習を促すとともに、昇格後も自らの課題を振り返る機会を与えるなど、成長し続けるためのチャレンジを求めます。

また、キャリア段階に応じた語学水準を定めて外国語の理解と習得を要請し、一人ひとりのグローバル化に対する意識を高め、国際感覚と語学力に優れた人材の育成を図っています。

◆ダイバーシティの推進

バルカーグループでは、国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、世界中の社員一人ひとりが持つ価値観や個性を尊重し、仕事へのやりがいや充実感を通じて多様な人材が持ちうる力を最大限に発揮できる職場環境づくりに努めています。

▶キャリアリターン制度

やむを得ない理由で退職する社員が、慣れ親しんだ職場環境で過去の経験や知識を活かす仕事に復帰できる制度を導入しています。対象となる退職理由を結婚・出産・育児・介護のみならず、海外留学や配偶者の転勤にまで拡大し、グローバル環境下における自己研鑽や人材流動化に対応しています。

▶勤務地限定制度

生活観や就労観が多様化する中で、柔軟なワークライフスタイルを提供するため、勤務地の限定・非限定を明らかにして、将来のキャリアビジョンを明確にする制度を導入しています。勤務地を限定しない人には、多くの経験を通じたキャリアアップが期待され、勤務地を限定する人には、ライフプランの実現を通じて充実した職業生活を送るとともに、その地域でのスペシャリティーとしての活躍が期待されています。

▶子育て支援（育児休業や育児短時間勤務）

育児休業は、子供が２歳６ヵ月に達する日まで取得できるようにその対象を拡大しました。従来から法定義務（保育所が確保されない等の理由であれば１歳６ヵ月まで）は満たしていましたが、１歳６ヵ月を超えた育児休業への需要が高いことから、法定義務を上回る措置としています。さらに、育児休業終了後も安心して育児ができるように育児短時間勤務の取得限度を子供が小学校３年生に達するまでとするなど、こちらも法定義務を上回る措置としています。

▶障がい者雇用の促進

地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れ、働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。企業実習や入社後に一緒に仕事をする中で、健常者も異なる価値観や立場に触れ、お互いを思いやり尊重しあう大切さを学んでいます。

▶エブリデー・ノー残業デー

毎日残業ゼロを目指して、残業の事前承認や消灯などにより帰宅を促すなど、さまざまな取り組みを実施しています。これにより仕事の効率化が図られることはもちろんですが、アフターワークタイムを家族と過ごす、自己啓発に充てるなど、仕事と私生活のさらなる充実を後押しする取り組みとして定着しています。

環境保全への取り組み

バルカーグループでは、地球環境の保全が人類共通の最重要テーマのひとつであると認識して「環境憲章」を定め、環境活動を推進しています。環境への取り組み年度計画は、執行役員で構成される環境委員会で審議決定し、定期的なレビューを行い、実行しています。運用に当たっては、全グループ共通の運用規定を制定するとともに、相対的に環境負荷が大きいグループ生産子会社ではISO14001の認証を取得し、工場単位での環境活動を推進しています。

2012年度の具体的な活動紹介

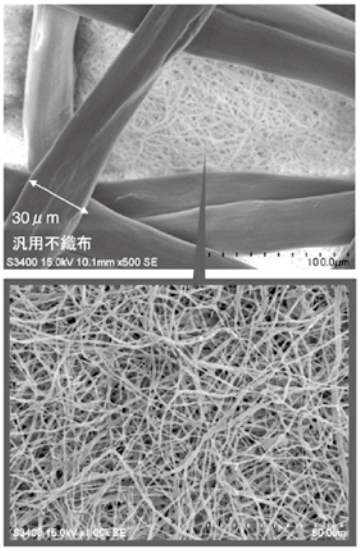
◆環境に配慮した製品の創出と事業展開

バルカーの主力製品であるシール製品は、液体や気体を漏洩させない性能を持つため、それ自体が環境に優しい製品ということが出来ますが、多くの製品は装置や設備の部品として使用されるため、製品自体に環境負荷低減や環境貢献の機能差別性を持たせることは容易ではありません。そのため、社内外に直接もしくは間接的な環境配慮および貢献効果のある製品の創出を図ってきました。また、“特集②”で紹介したメガソーラー発電事業への進出をはじめ、さまざまな事業展開を行っています。

●PTFEナノファイバー不織布の用途開発

アメリカ「ZEUS社」(Zeus Industrial Products, Inc.)と共同し、さまざまな特徴(低圧損、高通気性、高い分級性能、高耐熱、耐薬品性、撥水・撥油性)を持つPTFEナノファイバー不織布の用途開発、およびその市場開拓を進めてきました。

例えば、半導体製造、食品分野等で微細な不要粒子を除去するエアーフィルターに応用した場合、従来の素材よりも圧力損失を低減させることができるため、省エネルギーにも寄与することが考えられます。今後さらに特異的な性能を生かし、環境に寄与するさまざまな用途開発を進めていきます。



PTFEナノファイバー不織布

●省エネルギーに寄与する環境貢献製品「ECO照明」

地球温暖化防止、省エネルギー社会への転換が進む中で、エコロジー製品の象徴としてLED照明が急速に普及しつつあります。当社では、中国メーカーとのアライアンスにより2011年からLED照明事業に着手し、工場やオフィス、倉庫などのビジネス用途に向けた展開を図っています。

業界最高水準の発光効率を誇るLEDチップを用いたLED直管蛍光灯などの提供から始まり、2012年には高天井用途に向けた水銀灯代替LEDシリーズ、2013年からは防塵・防水性能を備えた水銀灯代替LEDシリーズや街路灯シリーズなど、顧客企業の要望に合わせたラインアップの充実を図っています。

LED街路灯 190Wタイプ
高天井用LEDランプ 150Wタイプ

省エネと経費節減をサポートすることで、顧客企業の期待に応えるだけでなく、エコロジーの観点から事業を通じた社会への貢献を果たす役割も担っています。

●環境に優しい製法の推進

ふっ素樹脂のフィルム・シートの表面処理に関して、イタリア「ガニフロン社」(Guarniflon S.p.A.)と協業し、環境に優しいナフタレン表面処理製品の製造に着手します。これは、排水を外部に出さない薬液リサイクル技術を用いて、欧州・中国での厳しい環境規制をクリアした製品となります。2013年央の稼働開始に向け、準備中です。

ふっ素樹脂表面処理シート

●環境に寄与する新技術に対応するシール材の開発

油による土壌・海洋・河川・大気の汚染への対応のため開発された代替作動油である生分解性作動油や、オゾン破壊係数がゼロで地球温暖化係数が低い代替フロン、混合冷媒などに対するシール材の材料評価や、大型蓄電池※に必要なシール材について、それぞれに適用可能な材料を開発しています。

今後も、さまざまな組成の生分解性作動油や、環境負荷のさらに小さい冷媒、環境に寄与する新技術に適用できるゴム材料の開発・評価を実施していきます。

※大型蓄電池は、電力貯蔵用設備として日間負荷変動の平準化や瞬時低電圧(瞬断)対策、太陽光や風力発電など供給の不安定な再生可能エネルギー発電の電力均等化のため、電力基幹系統の変電所に設置・活用することが検討されています。

◆地球温暖化防止、省資源の取り組み

生産部門や間接部門において、事業活動におけるCO_2発生量の削減および廃棄物の３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）に取り組んでいます。特に発生量全体の90％以上を占める生産部門については、削減計画や進捗監視を強化し、目標達成に向け取り組んでいます。

●CO_2削減（省エネルギー）の取り組み

2012年度は効率改善※の目標を前年比3％としました。合理化・原価低減活動成果および生産量増加による効率改善により、全社で7％の効率改善を達成しました。

なお、個々の削減施策実施により、生産部門全体でおよそ580t－CO_2の削減効果をあげました。また、間接部門では、2011年度に引き続き、夏場のピークカット、デマンドによる使用電力の監視や、窓ガラスへの遮熱シート貼付、照明のLED化、エアコンの更新などの施策を全国的に展開し、およそ39tのCO_2の削減効果をあげました。

また、グループの生産部門の海外比率は、京都議定書の基準年である1990年度に比べて非常に高くなっていますが、海外拠点でのCO_2排出量を加算しても、目標期間（2008年～2012年）の平均CO_2排出量は基準年と比べて32％減であり、日本の削減目標に対して大幅に過達しています。

※**効率改善**…生産部門では、エネルギー使用量（CO_2発生量）や廃棄物発生量は、前年度の原単位をもとに、当年度の生産量に応じた使用量（発生量）の予測を立て、その予測に対する効率改善に必要な削減計画を立て目標達成に取り組んでいます。

●廃棄物削減の取り組み

効率改善の目標を前年比５％としました。廃棄物発生を抑制する不良低減活動および発生した廃棄物の再資源化推進により、全社で18％の効率改善を達成しました。

なお、個々の削減活動実施により、生産部門全体でおよそ160ｔの削減効果をあげました。

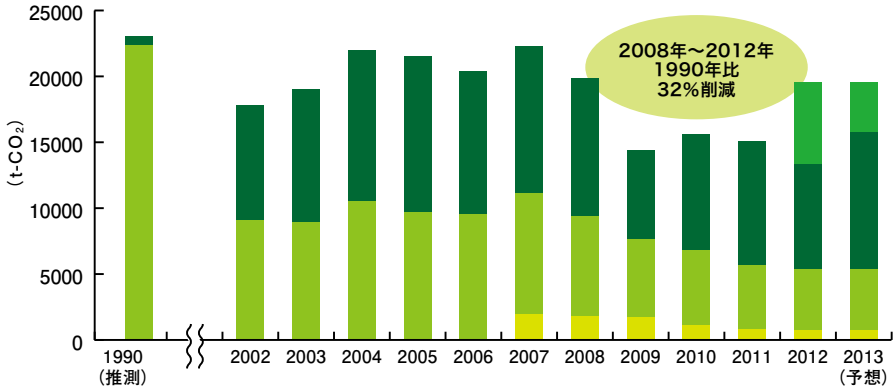
●環境法令遵守の取り組み

グループ生産子会社では、ISO14001システムによる環境活動を実施していますが、特に法令管理について、運用レベル評価を実施し弱点を認識することで潜在リスクを顕在化させ、予防措置を取ることにより、違反の未然防止を強化しています。

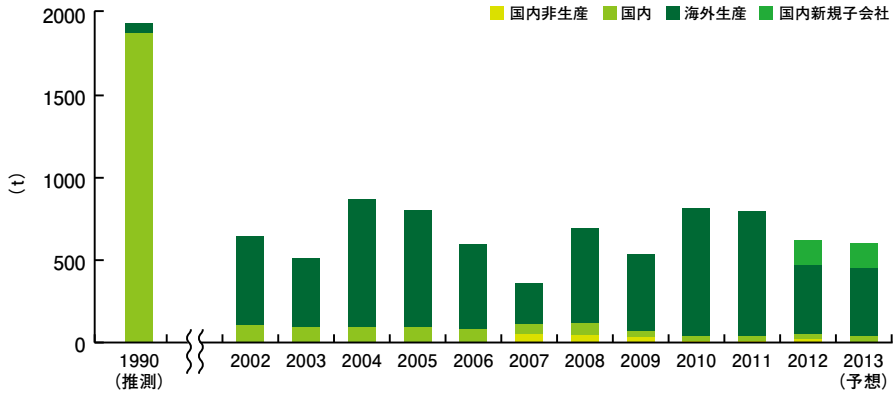
2012年度も当社グループにおける環境法令違反に関する行政指導および、近隣からの苦情発生等はありませんでした。

また、世界的に管理強化が求められてきている製品含有化学物質については、引き続き法規制遵守の観点から定めた、規則・手順・自主基準の運用や、製品設計、開発、調達、生産の全段階における原材料に遡った確認を行うことで、情報の一元管理と同時に禁止物質を含有させない管理を運用中です。

＜グラフA＞ CO_2排出量推移（生産部門＋間接部門）



＜グラフB＞ 廃棄物最終処分量推移（生産部門＋間接部門）



＜グラフA・Bの集計範囲＞　生産部門は連結子会社を対象とし、2012年度より国内２社が集計範囲に加わっています。間接部門は本社をはじめとした主な４拠点を集計範囲としています。

安全・品質への取り組み

バルカーグループは、お客さまに安全で安心な製品・サービスを提供するため、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」の『４つの品質』を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。また「安全は全てに優先する」との行動指針に基づき、安全な操業を行うための取り組みを徹底しています。

●品質保証体制と方針

グローバルな品質保証体制の一環として、グループ全体の品質全般を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。メンバーは、国内外の生産子会社や販売子会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発、経営管理、人材開発等、品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に関して責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

バルカーグループは、「品質方針」に基づいて関連する法規制を遵守するとともに、お客さまの要求に合致した品質で安全な製品とサービスの提供をするため、組織ならびに社員一人ひとりが具体的目標を掲げ品質向上活動に取り組んでいます。

バルカーグループの品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を保証する。

〈４つの品質〉

- **製品とサービスの品質**
- **製品とサービスをつくりだすプロセスの品質**
- **製品とサービスをつくりだす組織の品質**
- **組織を構成する人の品質**

●品質マネジメントシステムの運営

従来の生産子会社での認証取得に加え、営業部門を対象としてISO9001の認定を取得しました。これにより、グループをあげて業務品質の一層の向上を図っていきます。また、さらなる品質強化のために内部監査を積極的に展開するとともに、事業部門の品質管理部が生産子会社および製造委託協力会社に対して指導・監査を実施し、品質レベルの向上に繋げるべく活動を推進しています。

●バルカーグループ安全の日

バルカーは、５月18日を「バルカーグループ安全の日」と定め、海外を含めたグループの全工場、事務所で安全大会を開催しています。全社員がそれぞれの職場で、グループ安全憲章・グループ安全方針を唱和し、安全への誓いを新たにしています。

また、グループ全社員から募集し選んだその年のグループ安全標語・衛生標語が、それぞれ世界各国の言葉で発表されます。

バルカーシール上海における安全標語・衛生標語表彰

＜安全の日 in タイバルカー＞

タイバルカーでは、社員の安全衛生知識向上をめざして、「安全の日」に独自の活動を行っています。

バンプー警察署副署長による薬物防止教育と交通ルール教室

コンテスト：
職場での危険を探り出す危険予知訓練

コンテスト：
Re-Use Me Please“紙の復活”

バルカーグループ安全憲章

バルカーグループは「安全はすべてに優先する」ことをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任の下、グループ一丸となって安全活動に取り組む

バルカーグループ安全方針

安全憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、グループ社員が一丸となって安全活動を実践する

❶5月18日を「バルカーグループ安全の日」と定め、安全大会を実施し、社員の安全意識の高揚と無災害に向けての活動の起点とする

❷グループの安全管理体制の強化、維持向上を図る

❸安全確保のため、関係法令・社内の規則等を遵守するとともに、問題意識を持って迅速且つ的確な改善を行う

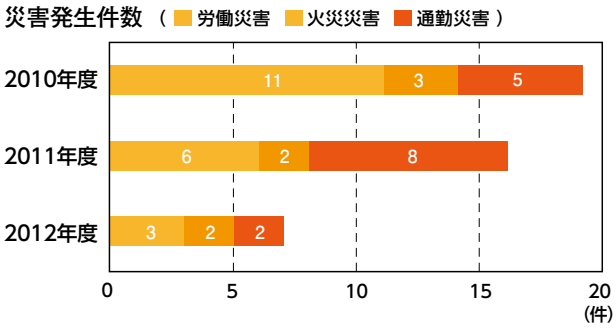
❹徹底した教育訓練のもと、安全に関するリスクの低減に努め、労働災害ゼロを推進する

●安全衛生推進活動

2012年度安全衛生活動は、「安全は全てに優先する」との行動指針に基づき、ルール遵守活動、予防活動としてヒヤリハット提案活動、安全パトロール活動、ならびに指摘事項の横展開と点検、安全に関するリスクアセスメント活動、社員の健康管理に焦点を当てた衛生活動を実施しました。

特に安全対策においては、ヒューマンエラーの可能性を念頭に置き、万が一ミスを犯した場合でも「作業者の安全が確保できる」予防・是正策の展開に取り組んでいます。

また、交通環境でリスクが高い中国拠点においては、通勤送迎バス網を拡充することでバイク通勤者のバス通勤への切り替えが促進され、通勤災害を減らすことができました。



①ルール遵守活動

安全意識を根付かせるため、朝礼時に安全憲章・安全方針の唱和および安全注意の確認を行ない、終礼時にはヒヤリハット提案をもとにした問題点の抽出を行っています。

また、遵守性を高めることを目的とした、ルール自体の見直しと整備も継続的に進めています。

②ヒヤリハット提案活動

災害や事故には至らなかったものの、日常の仕事の中でヒヤリとしたり、ハッとしたりしたことを提出してもらい、その事項に対して安全対策を行っています。

提案件数と対策率には目標を設定していますが、2012年度は不安全箇所や作業の抽出が目標以上に行え、対策率についても昨年度を上回る実施ができたことが災害発生件数の減少（昨年比44％減）として現れており、無災害に対する「各人の自覚と責任」の認識が深まっています。

③安全パトロール活動

定期的に安全衛生委員が職場の見回りを行い、職場での不安全作業や不安全箇所の抽出を継続して行っています。作業者の目による予防活動であるヒヤリハットと合わせて、管理者の安全意識の強化につながっています。

④グループ各社への横展開点検

グループ生産会社・事業所から報告されたヒヤリハット提案や安全パトロール指摘事項の中から、全社に共通する特に危険と思われる事項を抽出し、類似の事項がないかグループの全生産会社・事業所への横展開点検を行っています。

⑤安全に関するリスクアセスメント

生産現場および安全リスクのある部門を対象に、全てのリスクを洗い出し、その重篤度や発生の可能性を踏まえ、優先度に従って安全対策を実施する活動を行っています。

⑥社員の健康

グループ全社員に年１回の定期健康診断（受診率100％）と喫煙率低減活動を実施しています。

2013年度も「安全は全てに優先する」との行動指針に基づき、安全活動を継続するとともに衛生面にも焦点を当てた活動を計画していきます。

●メンタルヘルスケア

メンタル疾患に対する取り組みとして、メンタルヘルスに関する理解を深め、潤いのある職場作りをめざして数多くの取り組みを行っています。

具体的には、メンタルヘルスの相談窓口が記載されているカードの配布、ストレスマネージメント検査が行える専門サイトの開設などがあります。

社会貢献活動

バルカーグループは、社会を構成する一員としての責任を果たすべく、グローバルな視点で、地域に根ざした貢献活動を自主的かつ積極的に推進しています。より豊かな地域社会を築き、世界中の人々と感動を分ち合うために私たちは何ができるかを、私たちを取り巻くすべての人々と共に考え、自ら進んで行動していくことを推奨しています。

●社会貢献活動

毎年秋の休日を「バルカー感謝の日」と定め、世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域周辺の清掃や募金活動など、地域貢献のボランティア活動を続けています。2012年度は、全世界38ヶ所で活動を行いました。

また、タイバルカーではその活動を広げ、国内グループの社員の協力を得て、孤児院へ古着の援助を行いました。

清掃作業
（M・R・Tセンター）

非営利・有機栽培農場での
雑草除去および
植え付け作業
（バルカーアメリカ）

日本で集められた古着

募金活動（タイバルカー）

●東日本大震災被災地への復興支援

◆古紙回収活動

廃棄されるリサイクル可能な古紙を回収し、NPO法人「リサイクルネットワーク」に寄付する活動を行っています。その収益金は、被災地 宮城県女川町のインフラ整備などに役立てられています。

古紙の積み込み作業

◆古本・CD・DVD回収活動

不要となった書籍・CD・DVD・ゲーム等を回収して買取業者に送付すると、買取額に10％を上乗せした金額全額が「シャンティ国際ボランティア会」へ寄付され、被災地を走る移動図書館※用の本の購入費として役立てられる活動です。

移動図書館

※「いわてを走る移動図書館プロジェクト」…東日本大震災により、図書館機能が大きく低下した岩手・宮城・福島の東北３県に暮らす人々が本を手にし、必要な情報を得、自由に交流できる場を作る活動。

◆スポーツ振興支援（サイクルサッカー）

バルカーグループは、人々の心に多くの感動を生み出すスポーツの振興と発展を応援するため、自転車を操ってサッカーの技術やフィギュアの表現力を競い合う室内競技「サイクルサッカー」および「サイクルフィギュア」を支援しています。メインスポンサーとして主催する「バルカーカップ室内自転車競技選手権大会」は、2013年度に第10回目を迎えました。

TOPICS

地域企業との連携

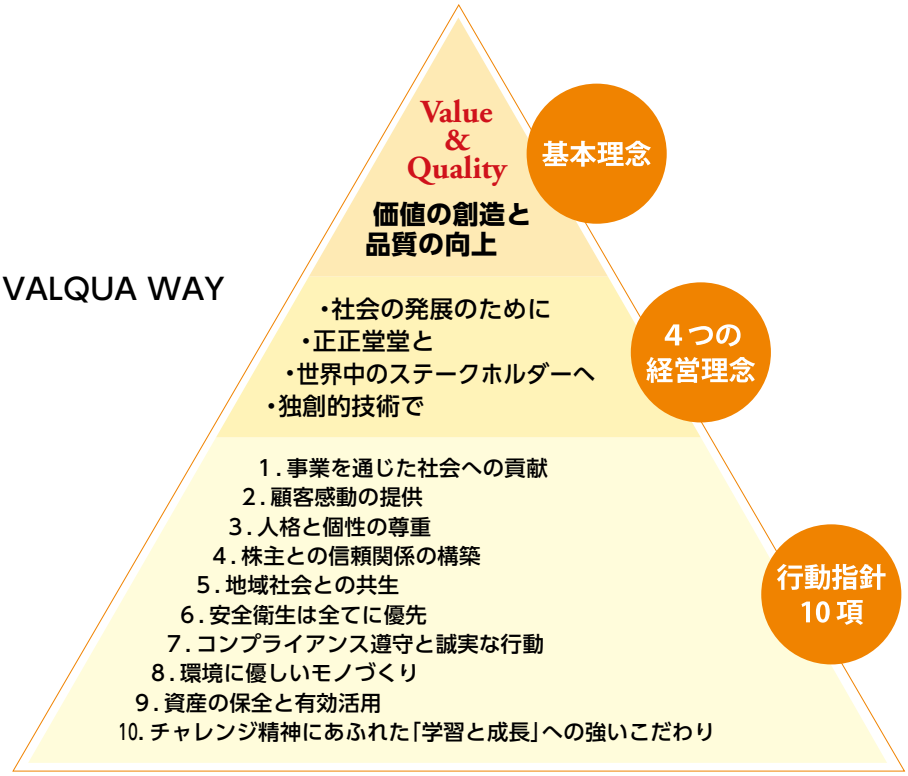
大崎事業所では、「しながわCSR企業連絡会」に加入して各種活動への参画をすすめています。また、各社との情報交換を通じて得られるさまざまなボランティア活動情報を社内に展開して、自主的で積極的な活動を推進することも目的の一つです。

バルカーグループのCSR

バルカーグループの企業理念「THE VALQUA WAY」は、社名の由来であり基本理念でもある「Value & Quality」、それをさらに社員が理解し実践しやすくした４つの「経営理念」、そして「行動指針10項」で構成されています。この深い理解と実践こそが、当社グループのCSRの基盤となっています。

また、2007年をCSR元年と位置づけ、「THE VALQUA WAY」を基盤に当社グループ独自のCSRコンセプトを打ち出し、より実践的な活動を行っています。

◆THE VALQUA WAY



バルカーグループのCSRコンセプト

バルカー独自の社会的貢献を意識した実践的な取り組みを実現すべく、３つのコンセプトに重点を置いて活動を推進しています。

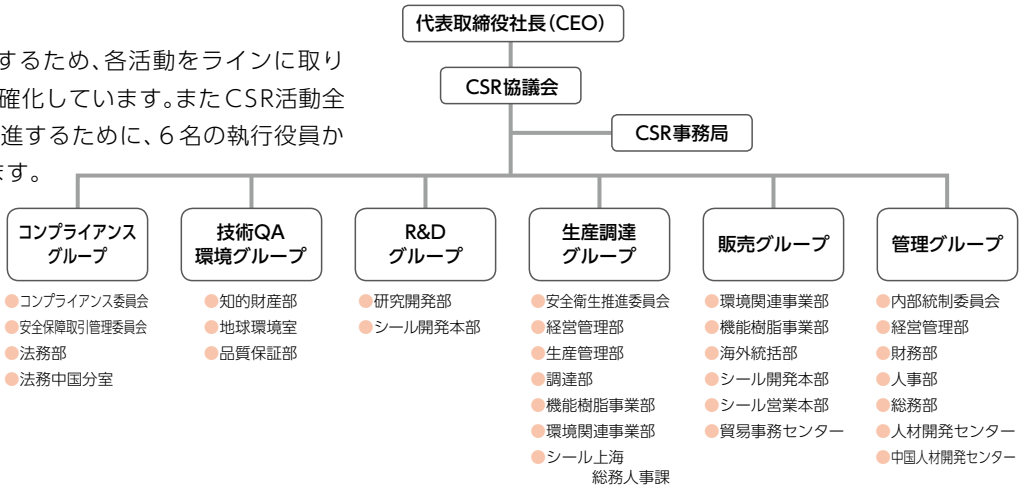
Collaboration for Customers
顧客のための協働
顧客の求めるものづくりへの徹底回帰

Superior Quality
第一級の品質
世界最高水準の差別化技術・品質の確立

Rule First
ルール最優先
社会の一員としてのコンプライアンス重視

CSR活動推進体制

積極的かつ確実な実行を担保するため、各活動をラインに取り込み、推進責任についても併せ明確化しています。またCSR活動全体の整合性を確保し、横展開を促進するために、６名の執行役員から成る「CSR協議会」を設けています。



CSRマネジメント体制

コーポレートガバナンス

バルカーグループは、経営全般の効率性の向上、意思決定や執行における適法性・妥当性の確保、これらを監視・是正するシステムの強化等、コーポレートガバナンス体制の整備強化に努め、公正かつ透明性のある企業活動を実現し、社会的責任を全うすることを経営の重要課題として位置づけています。

取締役会

バルカーグループは、執行役員制度を導入し、取締役会と執行役員の役割を分離したグループ経営体制を確立しています。取締役会はグループ全体の意思決定および監督機関と位置付け、取締役会が決定した経営方針・戦略に従い執行役員が業務遂行の責任を負っています。なお、現取締役会は、取締役４名（うち社外取締役１名）によって構成されています。

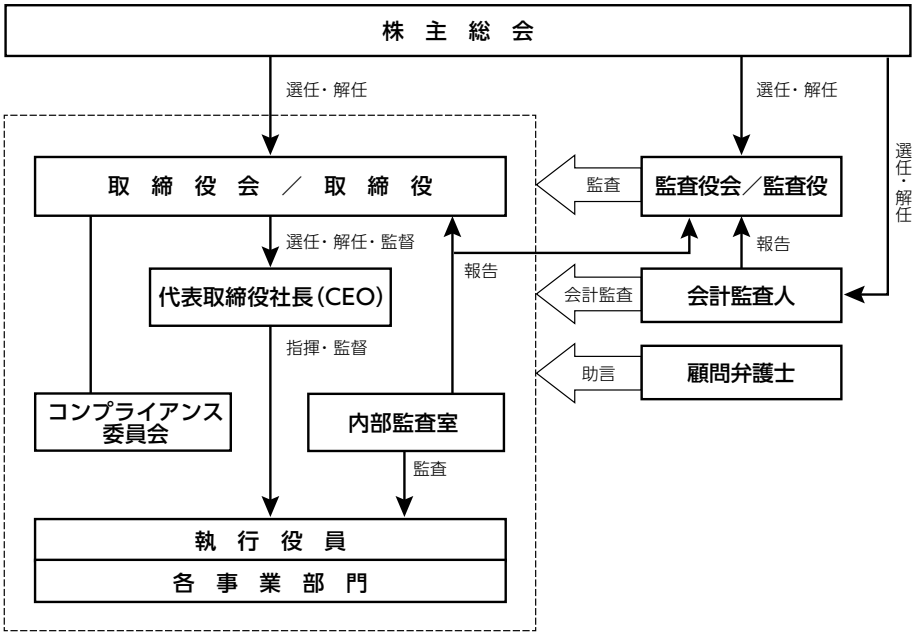
監査役会

監査役会は、取締役会、常務会、その他重要な会議に出席する他、重要な決裁書類の閲覧等により、取締役および執行役員の業務執行につき監査を行い、経営に対する監視、監督機能を果たしています。また、監査役は、会計監査人および内部監査室と積極的に情報交換を行っており、それぞれの監査機能の実行性を高めています。なお、現監査役会は、常勤監査役１名、非常勤監査役３名（内、社外監査役２名）の４名で構成されています。

内部監査

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメント等の幅広い観点から監査を実施し、評価、提言を行っています。

＜コーポレートガバナンス体制図＞



内部統制

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備、推進に努めています。

会社法等に基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容については外部環境、内部環境の変化に応じて適宜見直しを行っています。

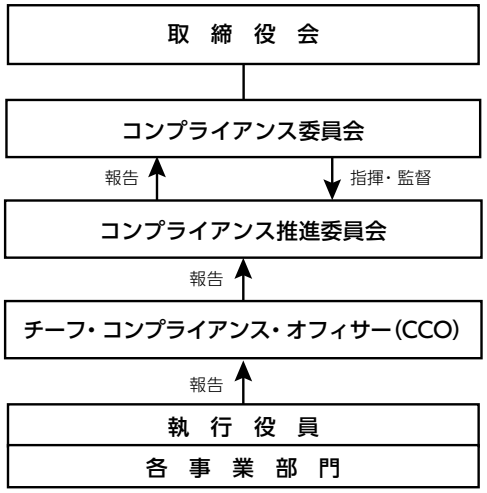
また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規程や業務プロセスの整備、評価、改善を行っています。2012年度においては、財務報告は有効である旨を記載した内部統制報告書を監査法人による適正意見を得たうえで開示しました。引き続き財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続します。

コンプライアンス

バルカーグループは、法令や企業倫理等の社会規範と調和しながら適正かつ健全な企業活動を行っていくことが、最も基本的であり、かつ重要な事項であると考えています。基本理念である「THE VALQUA WAY」に基づく行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

コンプライアンス体制

取締役を構成メンバーとするコンプライアンス委員会、執行役員を構成メンバーとするコンプライアンス推進委員会を設置し、2007年にコンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）」を中心にグループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。



報告・相談・通報ルート

社員が法令や社内規則違反等を報告し、相談し、通報できる仕組みとして、社外の弁護士に直接通報・相談できる通報制度と、外部委託機関が運営する「企業倫理ホットライン」（日本語、英語、中国語対応）を設けています。さらに、社員が自由闊達に建設的な意見を述べあえ風通しのよい風土づくりを目指して、バルカーグループ全てのオフィスに「意見箱」を設置しています。また、2009年９月には、経営トップ（CEO）と直接電子メールでコミュニケーションできるツールとして「CEOダイレクトライン」を設置するなど、複数の報告・相談・通報ルートを設けています。これらの制度については、通常の指揮命令系統から独立して運営されており、情報が秘匿され、また報告・相談・通報したことによって社員に不利益が課せられることのないよう運用されています。

社員教育

法務部および外部講師によるコンプライアンスセミナーを、新人から管理職まで階層別に毎年実施しています（2012年度受講者：国内外グループ社員718名）。なお現在受講者の約６割が中国をはじめとする日本以外で働く社員であり、海外展開の加速にあわせたグローバルなコンプライアンス教育にも力を入れています。

また、各職場にコンプライアンス推進担当者を置いており、年間計画に従って職場単位での自主的なコンプライアンス推進活動に取り組んでいます。

中国におけるコンプライアンスセミナー

リスクマネジメント

事業活動を遂行するうえで生じうるリスクを的確に把握し、リスクの発生を低下させるとともに、発生した場合でもその損失を最小限に止め、事業の継続性・安定性を図るリスク管理体制を構築しています。

業務リスク管理体制

「危機管理規程」に基づき、自然災害等グループに重大な影響が及ぶ事態が発生した際に、被害を可能な限り軽減し、早期に復旧するための基本方針および体制を定めています。

中国リスク管理委員会

中国事業におけるリスクに特化した管理体制を構築するため「中国リスク管理委員会」を設け、中国特有の事業リスクを評価し、分析を行い、重要なリスクについては必要な対策を施すなど、リスク低減に努めています。

会社概要

日本バルカー工業株式会社

本社（東京／シンクパーク タワー）

本　　社	：	〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目１番１号　ThinkPark Tower 24階
創　　業	：	昭和２年１月21日
設　　立	：	昭和７年４月８日
資　本　金	：	13,957百万円
上場証券取引所	：	東京証券取引所市場第一部
従業員数	：	456名（グループでは1,743名）
事業内容	：	産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空、電気・電子産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴム等各種素材製品を設計、製造、加工および販売

国内ネットワーク

●本社（大崎事業所）
〒141-6024　東京都品川区大崎2-1-1　ThinkPark Tower 24F
TEL (03) 5434-7370　FAX (03) 5436-0560

●事業所
大阪事業所
〒550-0002　大阪府大阪市西区江戸堀1-25-15　バルカー大阪ビル
TEL (06) 6443-5221　FAX (06) 6448-1019
奈良事業所
〒637-0014　奈良県五條市住川町　テクノパーク・なら工業団地5-2
TEL (0747) 26-3330　FAX (0747) 26-3340

●製造・研究開発・人材開発
M・R・Tセンター
〒194-0215　東京都町田市小山ヶ丘2-2-2
TEL (042) 798-6770　FAX (042) 798-1040

●営業所
札幌営業所　仙台営業所　日立営業所　京浜営業所
豊田営業所　名古屋営業所　岡山営業所　中国営業所
周南営業所　松山営業所　北九州営業所　長崎営業所

●駐在所
四日市／宇部／大分／熊本

○販売拠点
株式会社バルカーエスイーエス（千葉／茨城）
株式会社バルカーテクノ（東京／大阪／広島）
バルカー・ガーロック・ジャパン株式会社（東京）
バルメイ株式会社（東京）

■製造拠点
株式会社バルカー シール ソリューションズ（奈良）
株式会社バルカーエラストマー（福島）
バルカーセイキ株式会社（愛知）
九州バルカー株式会社（福岡）
バルカー・イイダテクノロジー株式会社（大阪〈豊中、八尾〉／千葉）

■販売・製造拠点
株式会社バルカー・エフエフティ（東京／長崎）

■研究開発拠点
日本バルカー工業株式会社（東京／奈良）

海外ネットワーク

●中国（上海）
・SHANGHAI VALQUA FLUOROCARBON PRODUCTS CO.,LTD.
・VALQUA SEAL PRODUCTS (SHANGHAI) CO.,LTD.
・VALQUA(SHANGHAI)TRADING CO.,LTD.

■研究開発・人材開発拠点
・VALQUA CHINA RESEARCH INSTITUTE
　CHINA SEAL INSTITUTE　CHINA MEMBRANE INSTITUTE
・CHINA HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT CENTER

●韓国
・VALQUA KOREA CO.,LTD.
　HEAD OFFICE　ULSAN OFFICE　PYEONGTAEK FACTORY

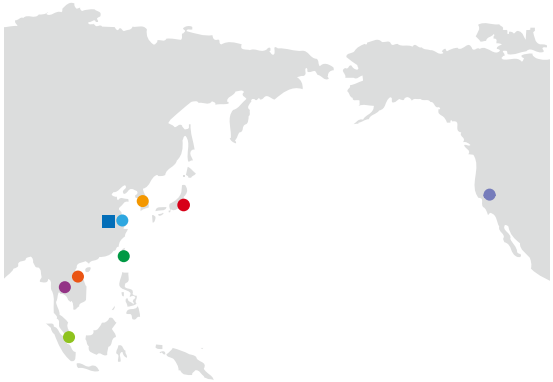
●アメリカ
・VALQUA AMERICA,INC.
　HEAD OFFICE　TEXAS OFFICE

●台湾
・TAIWAN VALQUA INDUSTRIES,LTD.
・TAIWAN VALQUA ENGINEERING INTERNATIONAL,LTD.
　HEAD OFFICE　HSINCHU OFFICE　KAOHSIUNG FACTORY

●タイ
・VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD.
　HEAD OFFICE　BANGPOO FACTORY　RAYONG FACTORY

●シンガポール
・VALQUA INDUSTRIES (THAILAND),LTD. SINGAPORE BRANCH

●ベトナム
・VALQUA VIETNAM CO., LTD.



VALQUA GROUP CSR REPORT 2013

CONTENTS

トップメッセージ…… 2

私たちのものづくり…… 4

特集①
グローバル
人材育成

……6

特集②
環境経営の推進

……8

特集③
Smart Women
～女性社員の活躍推進～

……10

各種取り組み

人材育成と職場環境づくりにおける取り組み…… 12
環境保全への取り組み…… 14
安全・品質への取り組み…… 16
社会貢献活動…… 18
バルカーグループのCSR…… 19
CSRマネジメント体制…… 20

会社概要・ネットワーク…… 22

●対象期間　2012年４月～2013年３月
（報告の一部に2013年４月以降の活動と取り組み内容も含みます）

●対象範囲　日本バルカー工業株式会社およびグループ会社

●発　　行　2013年８月

Value & Quality

VALQUA GROUP CSR REPORT 2013

日本バルカー工業株式會社

〒141-6024　東京都品川区大崎二丁目１番１号　ThinkPark Tower24階
URL　http://www.valqua.co.jp
お問い合わせ先：SR室　TEL03-5434-7372　FAX 03-5436-0560

VEGETABLE OIL INK
UD FONT
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531